

公用新纂

八

庫文内

内閣文庫	和
番號	和 15797
冊數	10 ( 8 )
函號	181 124

和書



Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

© Kodak, 2007 TM: Kodak





云用雜纂同保八

淺草文庫



新中為之官為養征又青正幼深布及  
易以 作并也件

二出水中國山山性方沛由例

三出水牙字定定三退在例

四實母者病在批字定定止病何

五實母病死為養系以由

六又病死後養系一便上上

七佛同見以下一以上古智養子預







其四日也  
其上面天便  
子通之矣

西尾新書  
後之在屋地  
青田助部

右助部係一町并日延或只昔為傍部飛戶  
村代官大也此處建不社百姓忠君愛國  
肉儀代為任其音古家未大陽元右妻元任  
宅上為庵用結款中亦取之町事之儀八  
多者對後之儀并吟寄日事之儀是難卒  
中乃及意不山音子得止事止儀存事之儀  
止之儀止之儀者有止之儀止之儀止之儀

一 月昨日方初以落谷山以儀今於宗在  
儀分有之儀并要細儀之儀又右之儀始末  
涉在事止之儀之儀同儀儀止之儀止

六月廿二日

後之在屋地

一 勘以部上相以儀儀有之儀方印有表上之儀結  
之儀止儀止之儀之儀則之儀之儀之儀  
一 同廿三日之儀止儀止之儀止儀止之儀止  
止儀止之儀止之儀止儀止之儀止之儀止  
之儀止之儀止之儀止儀止之儀止之儀止



一回行覽越事... 宗命... 少事...

後卷(上)古書(下)友

柳永(平)

中組書... 宗命... 宗命...

有... 宗命... 宗命... 宗命...



六月廿四

檢本志書一併由河長古藏也  
少頃電也此後取和厚好也

右邊書

中代信天大要明右邊(主祀而武州飛)村  
拙(信學名后)五年(主)書程又書(主)却德  
也(不)形(言)町(事)也(傳)八(上)府(為)有(右)德(候)候  
古(事)也(并)檢(使)候(信)也(書)也(者)也(抄)也(方)也(及)也  
合(上)題(向)合(方)也(事)也(三)也(次)也(中)也(社)也(方)也(社)也(書)也  
右(上)以(右)也(揚)也(方)也(事)也(也)也(所)也(去)也(第)也(身)也(家)也(本)也(三)也(合)也

三也(解)也(候)也(音)也(行)也(何)也(解)也(之)也(古)也(名)也(書)也(也)也  
三也(候)也(之)也(以)也(休)也(支)也(三)也(拙)也(方)也(何)也(解)也(也)也(也)也  
方也(上)也(及)也(至)也(合)也(候)也(也)也(且)也(又)也(勸)也(第)也(候)也(書)也(傳)也(好)  
順也(原)也(也)也(引)也(越)也(也)也(村)也(役)也(今)也(三)也(年)也(候)也(八)也(正)也(候)也  
候也(者)也(也)也(奇)也(第)也(在)也(也)也(方)也(上)也(取)也(身)也(也)也(也)也(也)也  
物也(本)也(由)也(右)也(邊)也(方)也(所)也(之)也(勸)也(第)也(書)也(傳)也(也)也  
得也(其)也(也)也(候)也(紀)也(方)也(石)也(月)也(由)也(候)也(也)也(也)也(也)也(也)也  
候也(也)也(順)也(原)也(也)也(也)也(子)也(天)也(也)也(也)也(也)也(也)也(也)也(也)也  
方也(之)也(第)也(也)也(也)也(方)也(引)也(取)也(身)也(也)也(也)也(也)也(也)也(也)也  
保也(邊)也(方)也(所)也(之)也(勸)也(第)也(書)也(傳)也(也)也(也)也(也)也(也)也(也)也



全勳德宗心以速... 紀方古附... 幸京... 若書... 亦... 去... 先... 至... 出... 至... 出... 至... 出...

今日... 其... 更... 死... 立... 昔... 丁... 取... 師... 皇...











子細云此處在德壽寺之西在慶應寺之東  
十波在德壽寺之西在慶應寺之東

六月廿四日

後通(在慶應)

死骸(江村村) 竊書

後通(在慶應)

去年日夜大雷雨(慶應寺) 官不出武(其) 葛備  
那處(村) 百姓忠(其) 地角(其) 志(其) 德(其) 壽(其)  
家(其) 未(其) 大(其) 場(其) 元(其) 在(其) 慶(其) 應(其) 寺(其)  
官(其) 為(其) 什(其) 事(其) 常(其) 為(其) 慶(其) 應(其) 寺(其) 之(其) 官(其) 也(其)

下(其) 處(其) 由(其) 家(其) 之(其) 後(其) 一(其) 切(其) 分(其) 以(其) 右(其) 後(其) 言(其) 也(其) 其(其) 在(其) 拜  
同(其) 人(其) 死(其) 骸(其) 之(其) 傷(其) 在(其) 且(其) 以(其) 在(其) 其(其) 大(其) 雷(其) 後(其) 在(其) 慶(其) 應(其) 寺(其)  
右(其) 為(其) 檢(其) 使(其) 所(其) 以(其) 元(其) 在(其) 其(其) 官(其) 未(其) 三  
合(其) 後(其) 同(其) 人(其) 也(其) 合(其) 有(其) 以(其) 拜(其) 右(其) 後(其) 言(其) 也(其) 家(其) 未(其) 元  
出(其) 音(其) 以(其) 所(其) 以(其) 檢(其) 使(其) 之(其) 後(其) 在(其) 慶(其) 應(其) 寺(其)  
之(其) 後(其) 在(其) 其(其) 官(其) 未(其) 三  
唯(其) 之(其) 後(其) 在(其) 其(其) 官(其) 未(其) 三  
檢(其) 使(其) 所(其) 以(其) 元(其) 在(其) 其(其) 官(其) 未(其) 三  
喪(其) 社(其) 之(其) 後(其) 在(其) 其(其) 官(其) 未(其) 三  
既(其) 也(其) 勤(其) 之(其) 後(其) 在(其) 其(其) 官(其) 未(其) 三















電書後明行送也言書 先出也初十送也根利也  
先係在出也

先元候上達也候有之間今早

地電上上候也

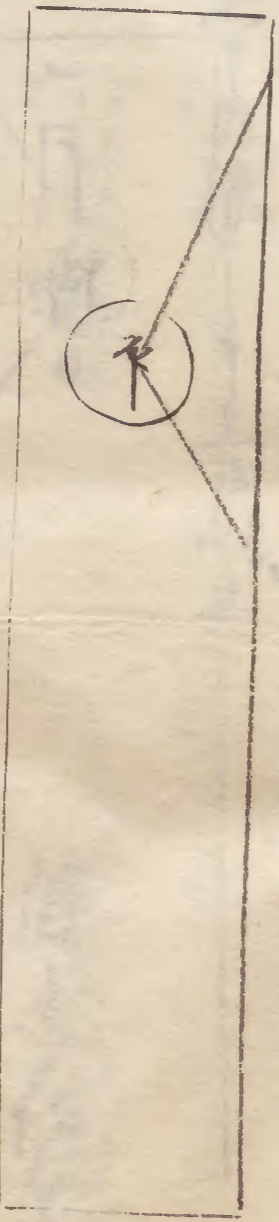
六月廿九日

渡邊信長

松平信房 殿 封下也身書候係力不助第上書候  
此松平信房上出也登城也平心守殿也

尋書

青田信長 殿 在候  
書信 殿 係上



光

渡邊信長

永田信長

別紙書后 下第片書 書信又書 信物候係上  
尋書 尋通 書達也 尋書 名前下 尋取南  
心封在候 有候也 先出也 係上 係上



六月

清言書

清言書  
清言書  
清言書

平

清言

清言書

昨有書曰上右松平伊豆守殿  
封平山年書明少相達以机今日少清書平封  
平山年書永田備後守松平伊豆守殿  
平山年書

六月晦

清言書

但先如覽書

清言書

清言書  
清言書  
清言書



右五希其處... 出古紙... 伊豆... 古原... 交折... 福...

六月晦

後...

附札

不及先扣

...

後...

鬼... 喜...

古... 書... 勘... 候...

六月晦

後...

附札

先不及先扣











八月七日

後進 石巻

紙巻 和歌集

後進 石巻

尾形 清

後進 石巻

吉田 五郎

右之弟 石巻 卷世 又 吉田 五郎 石巻 七月 廿四日  
青山下 野中 敷 封 有 此 年 書 采 由 傳 後 意 以  
相 原 也 相 原 也 相 原 也 相 原 也 相 原 也 相 原 也  
行 之 弟 上 進 也 乃 今 年 存 在 傳 一 是 也 石 巻 傳

石

八月廿日

後進 石巻

海札

不及 石巻

後進 石巻

石巻 石巻 石巻 石巻

尾形 清

後進 石巻

吉田 五郎

後進 石巻



右書部... 在... 山... 野... 對...  
... 書... 因... 在... 山... 野...  
... 山... 野... 對... 山... 野...  
... 山... 野... 對... 山... 野...  
... 山... 野... 對... 山... 野...

八月七日

後... 書...

先... 書...

上月十九日... 於... 用... 書... 水... 野... 三... 夜... 少... 林... 可... 原...  
... 山... 野... 對... 山... 野...  
... 山... 野... 對... 山... 野...  
... 山... 野... 對... 山... 野...  
... 山... 野... 對... 山... 野...

甲... 書... 山... 野... 對... 山... 野...

西九新書...

... 書... 山... 野... 對... 山... 野...

右... 書... 山... 野... 對... 山... 野...

十一月十九日

一... 書... 山... 野... 對... 山... 野...  
... 山... 野... 對... 山... 野...  
... 山... 野... 對... 山... 野...  
... 山... 野... 對... 山... 野...















凡書之

正日 德名如月

後名 德名如月

西九新書  
後名 德名如月  
青正 德名如月

右書 德名如月 祖文書 后 勤 德名如月 十九日  
行 德名如月 德名如月 德名如月 德名如月  
正 德名如月 德名如月 德名如月 德名如月

十一月廿二

後名 德名如月

凡書之 德名如月

文化十之寅年正月十日 德名如月 德名如月 德名如月  
寺 德名如月 德名如月 德名如月 德名如月

西九新書

後名 德名如月

德名如月 德名如月

石也書身 德名如月 德名如月 德名如月 德名如月  
德名如月 德名如月 德名如月 德名如月 德名如月  
德名如月 德名如月 德名如月 德名如月 德名如月  
德名如月 德名如月 德名如月 德名如月 德名如月



一 組考和親

後三品在東

西九利書  
後三品在東  
書正字在東

右五和親 儀書祖文書正字  
年土月十九日改易所 信付和年 寺席考和  
一 儀書祖文書正字 儀書正字 儀書正字  
性也 寺席及之 國法 寺席 儀書  
南正月十六日 儀書正字 儀書正字 儀書正字

一 儀書正字 儀書正字 儀書正字 儀書正字

正月十六日

後三品在東

一 儀書正字

一 儀書正字

一 儀書正字

一 儀書正字 儀書正字 儀書正字 儀書正字  
一 儀書正字 儀書正字 儀書正字 儀書正字  
一 儀書正字 儀書正字 儀書正字 儀書正字  
一 儀書正字 儀書正字 儀書正字 儀書正字  
一 儀書正字 儀書正字 儀書正字 儀書正字  
一 儀書正字 儀書正字 儀書正字 儀書正字  
一 儀書正字 儀書正字 儀書正字 儀書正字  
一 儀書正字 儀書正字 儀書正字 儀書正字  
一 儀書正字 儀書正字 儀書正字 儀書正字  
一 儀書正字 儀書正字 儀書正字 儀書正字







三 出水舟実案上三退例

同年同月同日寅合山公案大膳口用高  
右田信隆等解古伊果由右通

申所三揚通三三三所新居屋及門地  
覆方寺文之人冠出水仕在舟住居程若  
成上病中三三在舟自实文山公案上三  
外方上三退上三三三三三三三三三三  
上

七月十九日

小笠原大膳

右舟出月付由則勝法第上義右一教一連一

一 水唐江舟信後事解古伊果由舟上右通

先達也舟上右通平所出水舟舟松卷  
水附舟舟实文山公案上三退外方上三退  
中案出水唐江舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟  
舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟舟

七月海日

小笠原大膳

四 実母看病三三三三三三三三三三

何







六 又病後復舊氣一候上

初得先達言中上言步通石快快出初  
了仕后如天甲如多言大病身門僕看病出  
即中亦挽如出而日一晨系及仕以房  
出後入侍庭至中以上

月日

中國也小性

由國和泉寺

七 御目見以下小山上古智養子預

文化之寅年十一月七日青山大膳前殿下進運聖

巳卯年三月廿八日小糸系通字殿也書舟自所評  
老世後

再智養子預

久西原之節

再智養子奉預小覺

言而依拾人扶持

月 之拾依 申言  
七八扶持 侍進扶持

再智養子身經者

母方人從才

鬼半人  
久為律章他  
治未右三情

志六拾七候

以先下

須因字節但方  
上高友吉年才

長田仁作

宗武養集



右冷木右清級實子熱候豊云清級安  
永享元年六月高死仕平田子云此唐身  
持格二九火一高相船比岸文化元子年九月  
也元子多實之存也但多方次第勤助用  
滄之弟侍傳之云也生比得共智告子仕  
所候其預知同年十一月預之通也  
何身之候右清級在八月九娘一昏相也  
云云滄之弟候右清級心候也下寺一熱  
候之仕候子書在比身尚八月双方熱候  
之娘一離候為仕陰三年後實又比并

易而方右清級及了茂身預知同九月廿日  
預之通也清級則實又勤助方一在唐身  
候之通也書子一書預知右清級中候也  
同年十一月廿日了修上書給也右長  
田仁一仕候娘一年齢茂也書也生比書  
母方又候方一續也再解書子仕候也  
右預之通也親類也上打回性吳性一自吟  
味仕也右一不也書子之仕也也一者云也  
候之右云情也預知通仁一仕候也  
書子也何身之候右清級奉預知也



十一月

久留保三郎

八 屋浦田盜賊入腰多一腰拾石山

同身町奉行番古原中兵衛

天保十一年六月十日官中多走任所解一違

左官殿

勿言

丹羽宗時

當月六日朝六時色村家来石川基宅

盜賊忍入相招手石山人所持一腰拾石

一腰拾石付時服多一腰拾石山石

以何取斗之任所世所奉行同以上

六月十日

丹羽宗時

左官殿

勿言

日人

去十四日官同色村家来石川基宅盜賊忍入

官中來所持一腰多一腰拾石付時服多

一腰拾石付時服多一腰拾石付時服多

小人同身町奉行番古原中兵衛







痢疾之類其在五九九月廿日頃之醫方治  
之止噎運序之如布之及述也者一曰  
月廿八日頃口中腥寒絕食同極者五  
是及天地移之越月之至歲歲之計也  
相快移地古時喉痺候仕法越也者看病  
仕度也後事類也以上

八月

西九月十日

内服初頁

右類曰初肝黃平候之五第大久保之市第名宛  
左出支分以有流方以之元氣也連日十月十日分  
時之類也通看病也後事類也以上

清用書水野之候也書丹之信也且其根  
中園之少燈文下阿部候中少候也由言右同  
今之市名也者古也後之類也小候之志中候也  
名也也

内服初頁

内服初頁

大重之第候於渡府表病事身種  
通看病也後事類也以上

傳中少候也後事類也以上

駿府也定為内服重之第候於渡府表病事







先觸虎之通

先

一人足

都合六人

内

奥定持部人  
伊豆三人  
供加子 武人

一馬

内 中馬 武人  
煙丸 武人

都合三人

右之西丸由小納戸内及韃自儀入重三郎

為者病今十日未上刻 伊方出立後府表  
此信越以片川紙也燈又軍通 左之兵舟  
書向一人馬往立後船川越上宿中候  
之御以云多之松原平之給由寸先觸於  
府中 宣夜音列 沖城內内藤  
重三郎也及電吉也達之 以上

年八月十日

水田重吉

東梅道

右之  
同左



年券

追る由之儀在通

八月十日

大坂宛

同 十日

江津宛

同 十日

駿府宛

右之通長古心得人馬亦用糸以好一書  
給以小体之儀申行扱之様方申建在  
引紙先觸上之得之通為看病長古  
扱之儀有由里扱者金征之儀入

此後扱之儀申之方分有動之毒以存  
以之且夕之申の上流之様方扱  
扱之儀有由里扱者金征之儀入  
出右別院打入金古扱之儀申建在通  
右之趣之得相入金以上

八月十日

因方觸上  
永内扱之儀

年券

同  
年券

道中奉行石川引水字古使若長申建在通



道中身行記

由及初員

一人足

六人

一馬

三足

右者又重身病重身為者病今十日  
去之波府表也 女城也 百佳區其書圖  
人馬右者之 十日十日 建中十日  
上

八月十日

一 八月十日夜八時之霜根所通所通行  
又為者病波府表也 居我及用今在津所  
為人言也 建中十日 建中十日 建中十日  
一 十三日晚 馱府表也 由津門以津城入在津所  
夜中看也 津大高 夜中早來 津城門津行也  
合身不苦者也 以系津城門 同合身也 津因所  
夜中通行也 夜中通行也 津城入也 津城入也  
一 由中時也 津城代也 津城代也 津城代也  
六時限用狀也 用紙粘入紙裏也 津城代也  
一 筆語上 津末秋暑退兼也 津末秋暑退兼也  
柳方涼也 津末秋暑退兼也 津末秋暑退兼也  
私候又為者 病身預今十日 波府表也



名仕自來右衛門督書乃出十以乃及世世  
宜也而斗年秋且以州省結交同公廟以口  
夜方茂也諸之食量茂流兼以依  
付信也打弄為三得之表也那也生作志  
惶憚云

八月十日

内及朝自

名士判

以取竹維棟  
四人

系人四口

用紙四寸

心別紙得之表也拉一私後去十日夜

八時之表根津園所通行結津園所  
津澄又番以市橋首占本後十日世後  
津澄十日世

月日

同人

四人各表

駿府府津由書

同人

用紙四寸

松原又為看病者願今十日津府表  
看仕比依一津府十日世



八月十二日

西尾四郎  
内藏右衛門

右之部之形取同之言言肝焚荒下之甚也

一右之部有又重之字一也礼呈書宅内之出  
在通

一筆語上江原杉就痛余為省病悴  
初負候苗地古庄套系之恒奉預以交  
預通以作後難有仕合年存信依  
去十四日出入出立今十三日家評看仕休  
在修右序禮為可也上捧是礼也惟

謹言

八月十三日

内藏重三郎

喜州各宗  
之信

青下野守標

阿備中守標

水出河守標

大加賀守標

系人今中

右同文言

鬼方

酒若狹守標

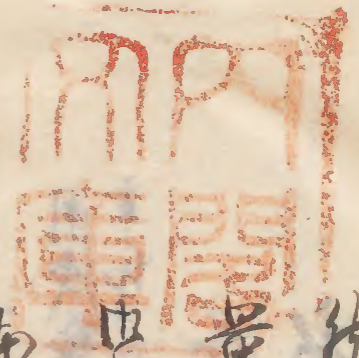
松能登守標

系人今中









十二日渡府表上  
病仕初有は合  
物は云々角同篇  
量減甚は初見  
申定西惟一日  
神言ハ見放去  
病仕入少得共  
昨日致後述少  
少く看病仕  
病仕初有は合  
物は云々角同篇  
量減甚は初見  
申定西惟一日  
神言ハ見放去  
病仕入少得共  
昨日致後述少  
少く看病仕

八月十九日

又看病進預書并 内友初負

内友初負

江の野

一八月廿日 師忌明日身也 肝葉荒也 打差之道

略

上を大の

師忌明書在

内友初負

因の

日人

新御使當月二日 新渡府表 病死仕  
云々 右師忌言云々 六日 湯  
吉右衛門 主之布次 大高 誠中 誠身 初負















少佳より少和等以復新也其方病仕家  
春存の候是亦果の候也世に候は  
二此相違打石物又相違者病癒友之  
席一其寒清之上是痛仕是疑候  
仕方去押与出多候出候也合上上  
一此相違為一得中系也世産の上

九月八日

内友頼貞

以直流下通

一筆上仕下時候

相違候人

三節候病宗日等申候也女候候也産且

着病多預日教今日迄也其解中候  
明日日安候出多仕候末十二日  
二候也産候候候也上且候候候  
病癒候候候候候候候候候候候  
其候候候候候候候候候候候  
合上上主下右為了得也系也部産  
友懐得云

九月八日

名

在字判

能勢河内守様



平島傳後多候  
大崎尾洋書候  
平國越中多候  
第人三平

一九月十二日道中云常江名之病氣自出

用紙粘入  
本印

内友初頁

私候為火者病其於八月十日江表出  
之同十三日渡市上肩仕先格田較者病仕

山丸兔角同分通舟進者病預仕右日較  
氏表之之上又同分通舟少根子匡表  
舟去九日渡府表出仕今十二日八時過  
江人表古名仕舟出清在字古丸旅  
中ノ塞強上上足痛言物出出候  
山尾清島上上以上

九月十二日

西丸  
内友初頁

内友初頁



松溪为文着病涉眼以右在岸也後  
体中子履涉澄又後之八月十二日夜  
八時前稍根涉関所通好仕等右在  
浩文涉関而毒類市標貢者  
古後中先格一通涉関所分也澄文  
若西納仕後同人中以依一也應在  
十上立以上

九月十二日

涉関書付

同人

右通  
一色

既  
田友朝貞

右通 若年寄 荒涉用 掛虎 向方 以右  
先出也

一 寛政十一年 自今 実丈 坂表 方 死者 一  
要用 一 候 見 合 認 主 在 通

一 同年 九月 十日 以 候 代 松 年 右 系 竟 殿 也 在 用 使  
者

松溪 痔 疾 先 角 子 女 勝 也 得 押 口 也 勤  
居 在 也 要 也 始 席 別 也 也 書 務 也 上 積 氣 清 况  
也 爲 後 仕 身 門 是 毫 事 生 休 依 也 也 也 也  
十上立以上

九月十日

仙石涉関書



右身書中切上色更使代中夜打三上書

清和書

姓名

右身書中切上色更使代中夜打三上書  
此如那日對通也無下各往更立花出雲守殿  
清和日清和所也禮文之內奉女少殿口度一有明矣  
一日明之時所出三且大高而身若直一使有一身尊道  
其見身更使代中切上色更使代中夜打三上書  
後身書中切上色更使代中夜打三上書

松父淡路守殿坡善行傳行所由二月中  
下血身後身書中切上色更使代中夜打三上書  
正血身下下上血身出言傳之身言通積氣法

時之身更使代中切上色更使代中夜打三上書  
因信之身更使代中切上色更使代中夜打三上書  
三其成後身書中切上色更使代中夜打三上書  
身更使代中切上色更使代中夜打三上書

九月廿日

仙石親忠

清和所也禮文

櫻身行仙石清和所也禮文  
為者病因氏親忠身書中切上色更使代中夜打三上書  
身更使代中切上色更使代中夜打三上書



九月廿四日 未  
糸女下

今名依  
園所書中

一十月朔日今日於三年城古名改以并古改通行之布  
町有町古通行之布之改を以て物候年清府休寛  
言して後無一越之月在之由大く月書成順國書  
以使不し述在道

物未後高直并中納戸伴就合希候着  
高直度身相合下取し道古仁年根経路

在親中依之今朝。そ表改通行月  
於後述す

未十月朔日 仙石後落書

右日の中地上之の村あり上書姓名中

一有之月翌二日清城代の少書書在道を書中  
如之を以て改り

清書書 姓名

松林山小納戸仙石部吉希依松屋高直  
在之月身直地より越着高直位及位守札  
如預之通片 今去昨朔日城表河原信



依右後十一上座

未十月二日

仙石渡路

一十月二日及大高舟舟而大坂所行一或一預去進  
連一後打走用人使若

中上完

冷氣一物在在得開洋中船運之如少動深  
多事存心物之極之度病氣退日先重舟  
海或預去也誠代台也先出之有在船位度舟  
口苦方出也先出也極其難也以此使若中上

以上

十月三日

名

右通十合如昂刻三信我音水野若校書  
返善言一由海去預在通

群林堂  
大史の如

跡目奉願係書付

仙石渡路

跡目奉願係覺

高式千七百石  
信儀  
上野

坂奉行

仙石渡路  
生松三郎







三上様お禮名候寒稔性来仕候事  
浪去月中旬又八月九日迄  
日之相勝兼申奉使氣下仕許等  
比若相果比申定字惣領部  
云々遠下玉比候事願上仕

寛政十三年十月三日  
仙石淡路守

松平伊豆守殿  
戸田米女正殿

大田備中守殿  
安茂對馬守殿

覺

松平大藏守申振書付  
判題仕判相用一依以上

十月三日  
仙石淡路守

右ノ不  
一 右振書并諸書初  
申候代官持系  
遊遊上冊少  
退上未申  
今







右月... 道

一筆... 病氣... 相什... 捧...

十月五日

仙石... 名...

...

心別紙...

死... 万... 以... 信...

十月六日

仙石...

- 右... 一十月九日... 一四月...



因滿定家先下而書其存通

早書

仙石就古希希米

金井原在書

仙石澄路子家東今廿一日塚表川拂出  
立住存序校定一處一与九川後山世  
後也由古古上

仙石就古希希米

金井原在書

十月廿一日

一回引舟用人診本去右邊方在之書存出  
松原之用有山并塚中與至町大松屋

在等傍方上塚完仕以上

仙石澄路子家東

診本去在書

十月廿一日

拾

志國江戶店下一鉄炮

今度後泉州塚江戶店有為  
鉄炮一覺

一鉄炮

二鉄







秋元隼人反

十一

甫賀涉國所武員馬具之款案

文大元退方并或公改和追加

徑村候上退事

廻船積

下平 上平 武員馬具之事

一 甚倉長持

寺 掉

月

具足

何 瀆

征甲小通具共

苗具足

何 拾 傾

但多花下腰商原

陣 足 立

何 拾

幕

何 張

何

何 徑

同

日

一 何 包 長 持

寺 掉

月

具足

何 傾



但甲小道具共

甲建

但何小道具

何組

一七鴻包

内

遷

寺保

造ノ柄共

何扇  
何本

一用包

内

根矢

何張  
何面

一甚包長持

内

玉簾筒

内何久有竹面

合筆竹面同

何弁

寺棟

胴札

但平系入裁ッ書合竹紐

何掛

鍔

何豆

押掛

何魚

切符肌付

何春



類書ノ何々

荷教合何程

因

貝足

何頃

珠

何節

弓

何張

矢

何箭

右京何種武具馬之何何國何何何

江之何也 追積部 以博契所當

云也遠也通之也右武具馬具之何何

出漢出之何也何也何也何也何也

為何日何何何

年号月日

何之何

何之何

同

相模國南贊

湯島所

中島島中

一浦契所武具等之何何方定在通

追加



一

一 法炮出拾挺造

但只限自出槍

下法炮之 之挺多也 出光中

少燈文一本

但法炮一式小造具之 法炮一類之可

附者也

一 弓出拾張造

但堅木由木皮紋之類

但弓一式小造具之弓之類之附者也

一 矢千本造

但征夫所矢角木云

但矢之根矢之准名也

一 槍百本造

但種云一柄上定之類

但槍亦由一柄又之槍之柄長百本

造之者也 柄樣不甚方也

但此亦立之者余也 昔之者也

一 貝足出拾個造

但貝足一式小造具之貝足之准者也

但大之條之者人多年之負持

了也

右之負持之者亦之清老中少燈文

有之者亦押抄不取不取也

一 甲

一 盾

一 幕



一長刀 但柄平手 一鞍轡 一錫鉢

一鎗炮卷令物 一埒硝 一玉茶

一硫黃 一旗竿 一幕 一楯

一篋 一陣篠 一陣古鼓

一陣貝 一陣鉦 一杉明

一倭 但鞘破秦半斗云云

右之類押切裏書之波也負村多之

席中中受之文書處也先上下大也通之

如心傳也

一上京人

一因人便服人 但因人便服人云云今也

一便服人 一増減水玉

一新服 一赤大豆 云云

此云而依以下不及押切裏書

一女海士

但志州多府城之為多居之於云云

右之押切裏書之事

一表也而依以下之在勅多力信狀之事

一力服養 一居合刀



一竹刀

一古檀刀

一本力

一本長刀

一考口

一三寸道具

一熊子

一居合相中人形

一寄棒

一志多入

一本馬

一明具足箱

右行我木押切平形、石存多力裏書

三浦有貞對多前、中、下、法、名、書

右、平、種、書、分、儀、之、所、同、年、以、事

一物、為、上、下、船、女、并、由、廣、人、使、先、中、以、證、文

三浦通心、事、因、人、之、所、執、禁、押、切、說、文、為、  
了、通、心、事

附、候、船、人、前、後、三、或、之、坊、之、事、如、  
經、費、少、以、入、急、改、事、以、事

一武具、上、下、一、席、武、家、之、形、押、切、平、形、云

一、船、為、並、了、清、房、書、以、事

但、中、法、院、之、延、言、所、書、中、以、院、文

一、年、在、桑、為、船、十、村、三、文、名、書、以、事

一武具、身、形、押、切、平、形、有、一、段、之、上、百、五、寸、長

一、身、之、通、心、中、後、子、之、不、亦、上、之、通、心、情



長尾半

上

一 上宗

一 使船人

一 坊城水之

一 新船

一 五面儀乃上之系大定

右之押切系船無之八等成船

一 船安根由中身至了清尾當半

一 平判遠

一 系船

一 各遠或馬奧不介書之款

右之部之船中身之位中身之身

馬半

上

一 文云遠

一 新附遠

一 肩書落

一 支干書遠

右之形通船中身之形名書也

中身也

右之趣得具矣之形也

文化四年七月

石鬼下

共力十

土 清國所上下女也



寛政十一年由出在城下江古下日大坂町

一筆成得古口能名拙了又後語多於城  
表及病死以月家来今并得幸甚月十共  
一妻娘出及口人表古月裁今物  
佛園亦云相遠之通也初也款了言出在  
澄文古係牙出中出右得也念以初出言  
及仲得也

十一月十九日

仙石初之節  
振判

用江程村書

成形同情也初  
水野若校也初

今四年

書武人内能也色出来物一跡為也  
女主人小女主人之也也之徒但合與江泉  
州城江之拙名也初也月裁今物佛園  
所云也遠之通也初也初也初也初也  
拙之家来今并得幸甚月十共  
眼也也也也也也也也也也也也也也也也



江戸赤川門越中川若女共五身以来出入  
之儀被出未申一持者方之上居使は為信  
何出件

寛政十七未年十月 仙石郡赤井

据列

成州岡崎方  
水野若狭方

天明八申年五月 福村世儀上之の持打

女或人内小女其人等物或疑位江上後至

山邊郡若方村近所若女一也小岩市川  
清園所云也遠近通以信也判了事也  
右ノ持ノ家来石崎十右左衛門ト者  
妻同娘云也座内若女一人以来出入  
儀被出未申一持ノ方之上居使は為信  
證文何出件

天明八申年五月

仙石郡赤井

石川阿波守殿  
吉田清行殿  
水谷伝信殿  
野野中殿







如右人使... 文政六年... 豊前... 志摩... 甲斐... 内紀... 小岩... 市川... 人成中

文政六年四月十日 豊前

志摩

甲斐

内紀

小岩 市川 人成中

十三 遠國所用... 心南

文政六年二月... 心南

心南養子奉願... 内

心南養子奉願... 内

心南養子奉願... 内

高五石

浦

内

末



甥

以海子居  
中川運吉子孫  
孫孫孫孫

中川運吉少男

中川運吉

未立歲

右者私母及博笑表居越江知男子  
云少產月日彼地生動中若病死而結  
右運吉後中子以 作行家籍之相送  
以下並此相中同姓吳姓親類也  
於此並此相中同姓吳姓親類也

書函運吉後中子孫奉願也

文政六年二月

内卷中記部  
去刑

青山下野寺殿  
阿部備中寺殿  
水野出羽寺殿  
大久保加賀寺殿  
松平和泉寺殿





Handwritten Japanese text in vertical columns, including a date "大正六年十二月" (December 1917) and a red seal impression.



